

椎間板内酵素注入療法（ヘルニコア注入） ～最新治療方法～

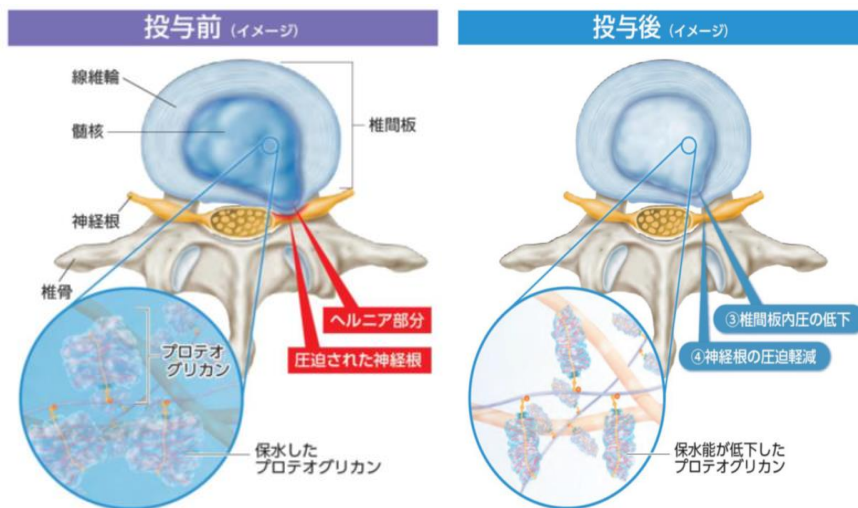
1. 椎間板内酵素注入療法とは

椎間板内酵素注入療法とは、椎間板内に酵素を含んだ薬剤を直接注射して、ヘルニアによる神経の圧迫を弱める方法です。当院では、この椎間板内酵素注入法にヘルニコアという薬剤を使用します。

2. ヘルニコアについて

ヘルニコアの有効成分であるコンドリアーゼは、髄核の保水成分を分解する酵素です。

背骨と背骨の間には、クッションの役割を持つ椎間板があり、その内部には髄核という組織があります。この髄核が後方に飛び出て、神経を圧迫するのが椎間板ヘルニアです。通常、髄核には保水成分が豊富にあるため、水分を含んで膨らんだ状態にあります。これは、飛び出して神経を圧迫しているヘルニアの髄核でも同じです。この髄核に適切な量のヘルニコアを注入すると、コンドリアーゼによって髄核内の保水成分が分解され、水分による膨らみが適度にやわらぎます。その結果、神経への圧迫が改善し、痛みやしびれが軽減すると考えられています。



3. ヘルニアコア投与の流れ

① レントゲン台に横になり体の位置を調整します。

X線でヘルニアのある椎間板を確認しながら、針を刺す場所を決めます。



② 針を刺す位置を消毒します。



③ 局所麻酔を行います。



④ ヘルニアのある椎間板内に針を刺し、ヘルニアコアを注射します。



⑤ 病棟に戻り、しばらく安静にします。

薬による副作用がないか等を確認をします。



4. 椎間板内酵素注入療法の入院から退院までの流れ

入院当日

準備 … 病室にて注射・点滴などの事前準備を行った後、手術室へ移動します。

治療 … 治療を行います。

術後 … 病室へ戻ります。

半日～1泊の入院となります。

治療当日は入浴を控えていただきます。

術後 1 週間

治療後 1 週間は腰に負担をかけないように心がけてください。

術後 3 週間

退院後初回外来となります。

痛みなどの症状が強い場合は、随時受診してください。

※ 上記は一般的な予定であり、個人差があります。

5. 椎間板内酵素注入療法の注意点

・投与によりアナフィラキシーの発現の可能性があります。アナフィラキシーとはアレルギー反応の 1 つで、短時間に全身性にアレルギー症状が出る反応です。

皮膚症状

皮膚のかゆみ、
じんま疹、
紅斑・皮膚の発赤など



呼吸器症状

声のかすれ、
くしゃみ、のどのかゆみ、
唇のはれ、息苦しさ、
呼吸困難など



消化器症状

腹痛、吐き気など



視覚症状

視野がせまくなるなど



※過去にヘルニアによる治療を受けた方は再度ヘルニアの治療を受けることはできません。

また、以下のような患者さんはヘルニア治療受けられない可能性があります。主治医とよく相談してください。

- ①アレルギー体質の方
- ②過去に「腰椎不安定性」の疑いがあると医師から言われたことがある方
- ③変形性脊椎症、脊椎すべり症、脊柱管狭窄症などヘルニア以外の脊椎疾患のある方
- ④骨粗しょう症、関節リウマチのある方
- ⑤妊娠中の方、妊娠している可能性のある方、授乳中の方